

内分泌検査	検査内容	正常値
甲状腺機能	エネルギー代謝を調整するホルモンです 胎児は産生能がなく、母体に依存しています そのため低下症の場合は特に流産の原因となります	TSH 0.34~5.00 μ U/ml FT4 0.9~1.7 ng/dl
プロラクチン	下垂体前葉から分泌されるホルモンで、着床や妊娠維持に重要なホルモンです 乳腺発達・乳汁分泌、妊娠時には黄体の機能を維持させ黄体ホルモンの分泌を維持させます	2.7~28.8ng/ml
血糖	高血糖状態では、胚や胎児の細胞分裂や代謝過程に異常をきたす可能性があります	70~109mg/dl

自己抗体検査	検査内容	正常値
ループスアンチコアグラント	血液の凝固を抑制する作用があります	1.2以下
抗カルジオリピン抗体 I g G	カルジオリピンに対する血中抗体は、抗リン脂質抗体症候群のような自己免疫疾患で検出されます	10未満U/ml
抗PE抗体（抗キニンノーゲン抗体）	血小板活性化を抑制します	0.300以下C.I
抗核抗体（ANA）	自己の細胞中にある細胞核を構成する成分を抗原とする自己抗体の総称。いくつかは自己免疫疾患の病態判定などに意義が認められています。	40未満倍

凝固系検査	検査内容	正常値
PT（プロトロンビン時間）	血管外で働く外因子系の血液凝固因子の異常を調べる検査です	80~120%
APTT（活性化トロンボプラスチン時間）	血管内で働く内因子系の血液凝固の異常の有無を調べる検査です	45.0以下 秒
第Ⅻ因子	PT、APTTと合わせて検査することで、12種類ある血液凝固因子のうち欠損している因子を判断し診断します	46~156%
プロテインS活性	凝固阻害作用を示すプロテインCの補酵素 プロテインSが低下すると血液が凝固しやすくなります	56~126%

その他検査	検査内容	正常値
Th1/Th2解析	正常妊娠ではTh1細胞が減少しTh2細胞が優位になり妊娠が維持されます しかし、Th1/Th2比が高いと不育症や着床不全の原因となる場合があります	10.3以下
25-ヒドロキシビタミンD ₃	ビタミンDは免疫寛容に関連するTh2細胞やヘルパーT細胞を調節する制御性T細胞を増やし、免疫拒絶に関連するTh1細胞を抑制することが報告されています	30ng/ml以上
血液染色体検査	染色体異常があると流産を繰り返す原因になりますが、治療法はありません	なし